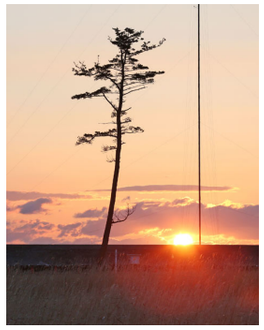
明石市立大蔵中学校だより「2022年3月7日(第151号)」

# 書あり 師あり 友あり



## 3・11震災の日を前に考える機会に

学校長 平 田 高 之

戦後最悪の自然災害となった東日本大震災から11年が過ぎようとしています。津波被害が大きく、15,899 名の方が亡くなられ、震災10年後の昨年度の段階でも2,526 名の方が行方不明になっていると報告されています。また、震災から 11年を経た本年2月でも、約 38,000 名の方が全国47都道府県で避難生活を続けておられるようです。

今年は、新型コロナウイルス感染症に加えて、ロシアのウクライナへの侵攻の報道が多く、例年より震災を取り上げる報道が少ないように感じますが、これから 3 月 11 日が近づく中で、当時の映像や震災後の様子がTV等で放送されると思います。改めて、津波の恐ろしさ、南海トラフ巨大地震が起きた場合に備えた防災教育の重要性を感じているところです。

さて、夏休みの宿題にしていました人権作文ですが、2年生の佐藤ふぇいとさんの「福島県産のプライド」が「令和３年度全国中学生人権作文コンテスト兵庫県大会明石・三木地区予選優秀賞」に選ばれました。東日本大震災に関係しており、とても考えさせられる内容となっていますので是非ご一読下さい。また、報道やこの作文をきっかけに、ご家族で震災を考える機会にして頂けたらと思います。

## 福島県産というプライド

大蔵中学校 2年 佐藤 ふぇいと

私の父は福島県の会津地方の出身で、実家は磐梯山という山のふもとにあります。代々続く専業農家で、米やみしらず柿などの農産物の他に、味噌やしょうゆなどの加工品を作っています。私の祖父母や曾祖父母はとても研究熱心で、会津で生産したお米や柿を毎年天皇陛下に献上しているということが何よりも自慢で、美味しい農産物を生産するために努力を惜しまない人でした。夏に川を流れる奥羽山脈の雪解け水はとても清らかで父の実家で食べた福島の農産物（特にももやなし）はみずみずしく忘れられない味です。

東日本大震災から10 年が経った今、Google の検索バーに「福島産」と入力すると、「食べない」「危険」「輸入禁止」「放射能」という言葉が自動で、しかも上位に表示されます。これは予測変換機能によって表示されたもので、検索した単語（福島産）に関連づけられた言葉を選定して、検索候補を自動で挙げる機能なのだそうです。きっと多くの人が二つの言葉を関連づけて検索しているのでしょう。

検索結果を見ると、ヒットしたのは 500 万件以上もありました。上位には専門家による見解が書かれたページのほか、中には匿名の方による無責任と思われる意見や、福島県で障がいがある子が生まれているとか、鼻血が止まらないといったフェイクニュースも散見されます。専門家の間でさえ「安全」という考えと「安全ではない」という考えに分かれています。私にとってそのような意見の根拠となる情報は膨大で理解が難しく、検索した結果、余計に分からなくなってしまいました。答えを見つけるために多くの時間を費やした結果、自分の心に最後に残ったのは、不安、それに情報を調べて自分で判断するのが面倒という気持ち、君子危うきに近寄らずと思ってしまう自分が嫌になる気持ちでした。

私は福島原子力発電所の四号機が水素爆発した時、父の実家にいました。自治体による甲状腺検査も受けたことがあります。あの時僕の曾祖父母は、「大変なことになってしまった。自分たちがこれまで築いてきた農産物のブランドはどうなってしまうのか。」と言っていたのを覚えています。事故の後、福島県産の米の価格は大きく値下がりし、2014 年はマイナス 10.4%、2018 年はマイナス 3%で、今でも事故以前の価格には戻っていません。出荷先は、コンビニや外食チェーンが多く、家庭の食卓に並ぶことは多くありません。関西でも秋田や山形のお米はスーパーでよく見かけると思いますが、福島県産のお米は見たことがないのではないでしょうか。私の親せきのトマト農家はカゴメの契約農家でしたが、原発事故の数週間後にあっという間に契約を打ち切られ、未だに契約は戻っていないそうです。この親せきは、福島県での農業を断念し、別の地方での農業を再開する選択をしました。

福島県に住む人は今でも見えない敵と戦っていると感じます。見えない敵とは、残存する放射性物質のことなのか、あるいは私たちの心の中にあるものなのか分かりません。何と戦えばいいのかが分からない状態なのが厄介なのだと思います。危険に近づくべきではないと思うのは当然の考えだと思います。放射線を正しく怖がることは必要だと思います。しかし、正しくない情報や偏見、それに無関心（知ることの放棄）で人々を傷つけるのは許されないと思います。例えばここで言う無関心とは、福島県産を避けていても特に生活に支障はないし、安全だと言われてもいまさら変えるつもりはないのでこれ以上知る必要がないというような考えです。福島県産は危険という考えがこれからもずっと固定化されるでしょう。偏見や決めつけている人は、自分の意見を偏見だと気づかないことが多いのではないでしょうか。ある人にとっては、調査や統計の結果による根拠があるのかもしれません。しかし、どんな調査にも偏ったものの考え方（バイアス）が入る余地があり、それから自由になることはできないのではないでしょうか。放射線や原発に対しては、さまざまな考え方があり、それぞれの立場は尊重されるべきだと思います。しかし、「福島県の農家は全国に放射能をばらまいている。」や、「福島県の農家は農業を辞めろ。」という声が、福島県の農家をひどく傷つけていることを忘れてほしくありません。私の曾祖父母は、東日本大震災の後、亡くなってしまいました。曾祖父母の最後の言葉は、「自分が作った農産物は原発と同じように嫌われている。」という言葉だったそうです。私はとても悔しかっただろうなと思い、悲しい気持ちでいっぱいです。

私が皆さんに伝えたいことは、根拠のない情報に流されない、それを周囲に伝えないということです。そして、もし叶うならば、知ることを放棄しないでほしいと思っています